

## 令和7年度 第3回 大阪府立平野支援学校 学校運営協議会 議事録

大阪府立平野支援学校  
校長 山崎 彩

日 時	令和8年2月17日 (火) 10:00~12:00
場 所	大阪府立平野支援学校 小会議室
構成員	陸奥田 維彦 (委員) 岩元 康 (委員) 市場 達朗 (委員) 谷藤 誠宏 (委員) 中野 淳子 (委員) 増田 恵 (委員) 山崎 彩 (校長) 長谷川 真哉 (教頭) 橋本 伸彦 (教頭) 加藤 孝 (事務長) 井本 勇氣 (首席) 橋本 万以子 (首席) 玉井 実加 (指導教諭) 阪本 祥子 (小学部主事) 飯塚 恵子 (中学部主事) 服部 麻衣子 (高等部主事)
次第	(1)授業見学 小学部「おはなし(5、6年生)」 (2)年間テーマの総括 小学部 (3)学校経営計画令和7年度自己評価 (4)令和8年度学校経営計画 (5)シラバスの改定と活用について (6)協議
意見等の概要	(1)授業見学について 一人ひとりに寄り添った教育を実践している。例えば、絵本を見やすくするためにタブレット型端末を用いて児童の手元で表示したり、一寸の大きさを実際に触れられるように教具を用意したりしていた。また、音の鳴る教材に触れる前に言葉かけをしたり、よりよい姿勢づくりのために教具を工夫したりと経験年数の異なる教員が連携をとりながら、学びの環境調整を授業で生かしていると評価された。 (2)年間テーマの総括 小学部について 子どもの心が豊かになっている様子の変化がある。手作り感のある教材が良く、教員の頑張りを感じると評価された。 (3)学校経営計画(令和7年度自己評価、令和8年度計画)について 教員にとっての働き方改革とは、授業に注力できる環境づくりである。働き方を見直す社会情勢の中で、これまでも見直しをしてきたと思うが、「これはすべき仕事」という思考を変えることで、一部の教職員への業務の偏りが解消されたり、経験の浅い教員の指導力が向上したりするなど、働き方にやりがいと助言をいただいた。 子ども性暴力防止法施行にともなう不適切な接触に関わる教職員の指導・介助の方法について、今後の学校経営計画に取り入れてはどうかと指摘を受けた。 また、ICT機器を活用した教育については、ICT機器を使うことが目的にならないよう、「〇〇のため」にICTを活用したという使い方となるように意識しておくことが重要であると助言を受けた。 (4)シラバスの改定と活用について 小学部、中学部、高等部と系統立てた目標ができていると評価された。このシラバスを用いることで、保護者にどのような目標を持って授業をしているかを説明できる。また卒業後も、平野支援学校の子供たちがどのような教育を受けてきたのかという証にもなり、子どもの尊厳を守ることにもつながっていくと助言を受けた。 できあがったシラバスを用いて授業をしたとき、1年を通じてどのように授業が展開していくのか、また内容によっては教科横断的に展開した方が良い内容もある。そのようなことを想定して、シラバスを活用してほしいと助言を受けた。
備 考	・傍聴者 なし